

2026年1月25日主日禮拜説教要約

主があなたとともにおられる

(ヨシユア1・1)9

一、ヨシュアに授けられた使命

1節、2節を見てまいります。全の
しもベモーセの死後、主はモーセの従
者、 Nun の子ヨシュアに告げられた。
「わたしのしもべモーセは死んだ。今、
あなたとこの民はみな、立ってこのヨ
ルダン川を渡り、わたしがイスラエル
の子らに与えようとしている地に行
け。」とあります。時は、紀元前130
0年頃です。主がモーセに続く指導者
として選ばれたのは、 Nun の子ヨシュ
アでした。(ここに、『モーセの従者』と
記されていますが、ヨシュアの特長は、
一にも二にも、モーセの従者であった
ことです。その意味は、主に従うモーセ
に、ヨシュアもお従いしたという意味
です。2節2文目に今、あなたとこの
民はみな、立つてこのヨルダン川を渡
り、わたしがイスラエルの子らに与え
ようとしている地に行け。とあります。
この時、ヨシュアとイスラエルの民は
どこにいたのでしょうか。ヨシュア記
は、その前の申命記とつながっています。
申命記の舞台は1章3節と5節を
見るときに分かります。申命記の舞台
は、『第四十年の第十一月の一日』です。
第四十年とは、エジプトを脱出した年
を「第一年」としての「第四十年」の意

味です。モーセが新しい世代のイスラエルの民に語りかけたことばが、申命記に記されています。場所はどこだつたのでしょうか。ヘヨルダンの川向こうとは、どちらの側から見ての「川向こう」なのでしょうか。主が賜ると言われた、約束の地力ナンの側から見てのほうの日付はいつになるのでしょうか。同じく、第四十年の第十一月の一日とすることになります。29章14節、15節より分かれます。あの長い申命記ですが、申命記によれば、たった一日のうちに語られ、起きた出来事として記されています。

ヨシュア記1章3節、4節を見てまいります。「わたしがあなたがたが足の裏で踏む場所はことごとく、すでにあなたがたに与えている。あなたがたの領土は荒野からあのレバノン、そしてあの大河ユーフラテス川まで、ヒッタイト人の全土、日の入る方の大海までとなる。」とあります。主の、すごい約束ですね。「あなたがたが足の裏で踏む場所はことごとく、すでにあなたがたに与えている」は、今日の価値観とは相容れませんし、ユダヤ教、キリスト教を攻撃しようとする人の、格好の文言になりますね。私たち信仰者は、このことばを普遍的に

「ヤモリさん」と云ふ不思議

適用する気持ちは、少しもありません。ですが私は、主が約束された地はイスラエルのものである、という考えを持っています。

ています。〈J〉のすべての出来事は、主が預言者を通して語られたことが成就するためであった。「見よ、処女が身ごもっている。そして男の子を産む。その名はインマヌエルと呼ばれる。」それは、訳すと「神が私たちとともにおりられる」という意味である」と。神が、私たちと同じ「肉」（＝人）となられた主イエスこそ、神がともにおられるお方でした。そして、死者の中から復活させられたイエスさまは弟子たちに語られました。〈見よ。わたしは世の終わりまで、いつもあなたがたとともにいます。〉

モーセとともにいたように、「あなたともにいる」と。主がともにおられる」ともにいる」と。「主がともにおられる」とは、まさしく不思議中の不思議かと思ひます。私共は、そこに神の見えない御手を見いだします。アブラハムのことを思い起^こしてください。多くの失敗をしました。ですが、真摯に主を見上げ、主にお従いしたゆえに、神はアブラハムとともにいることをあらわしてくださいました。ダビデも同じです。取り返しのつかない罪を犯しました。しかし主は、神の前に何の言い訳もしないでお従いして行^こうとするダビデとともにおられました。もちろんダビデは、犯した罪のゆえに徹底的に償いをさせられましたが。主イエス・キリストの誕生の箇所を思い起^こしてください。マタイの福音書1章23節、24節は語つ

ヨシュアはその生涯の中で、「わたしはモーセとともにいたように、あなたとともにいる」という不思議を幾度も経験しました。ですがそれは、ヨシュアの信仰深さから来るものではなく、1章8節にありますように、「このみおしえの書をあなたの口から離さず、昼も夜もそれを口ずさめ。そのうちに記されてることすべてを守り行うためである。そのとき、あなたは自分がする」とで繁栄し、そのとき、あなたは榮えるからである。」から来る、神の不思議なみわざでした。「このみおしえの書をあなたの口から離さず、昼も夜もそれを口ずさめ」は、新約に生きる私共に適用するなり、「みおしえ」そのものであらる、主イエス・キリストに信頼する」とです。